

公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金

設定趣意書

平成 17 年に愛知県で開催された 2005 年日本国際博覧会は、「自然の叡智」をテーマに掲げ、地球的課題を克服し人類と自然が共存し持続的に成長が可能な社会を創造するための様々な提案と情報発信を行った国家的大事業でした。同時に愛・地球博の愛称で親しまれ、予想を大きく上回る 2,205 万人が来場し、大きな成果を遺しました。愛・地球博は、地球大交流や壮大な実証実験の舞台となった開催地域の人々に鮮明な記憶を植え付け、持続可能な 21 世紀社会のモデル構築に向けた行動を喚起しました。こうして盛り上がった機運を閉幕後も大切に引き継いでいきたいという声が愛知・名古屋を中心に周辺地域には満ちています。

誘致から開催準備、開催期間、閉幕に至るまで愛・地球博を支えてきた愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所及び社団法人中部経済連合会の地元関係 4 者は、こうした動きを真剣に受けとめて地域の願いを実現に移すため、博覧会の収益金を活用して基金を設けることを提案いたしました。このため、昨年 8 月に学識者を加えた委員会を設置し、管理運営方法、支援対象及び審査の仕組みを含め基金のありかたの検討を行いました。検討作業に当たっては市民活動の関係者の意見も聴き、検討結果を取りまとめたものが「愛・地球博記念社会貢献活動支援基金の創設に関する検討報告書」（平成 18 年 12 月 4 日作成）です。この「報告書」に基づき愛知県は、公益信託を設定するために地元関係者の代表として委託者となることを約束いたしました。

よって、愛知県は開催地域の総意ともいうべきこの負託に応え、この報告書の趣旨に従い、愛・地球博の基本理念を継承発展させるに相応しい市民の自発的な社会貢献活動を支援するため、公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金を設定するものです。

平成 19 年 3 月 30 日

公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金

委託者

愛知県

代表者 愛知県知事 神 田 真 秋

